

常願寺川水系河川整備計画の目標設定と計画メニューの骨子について

項目

整備計画目標

洪水による災害防止又は軽減

【「急流河川」特有の流水の強大なエネルギーに対する堤防の安全確保】

急流河川特有の洪水時のエネルギーに対する堤防の安全を確保するため、急流河川対策を行い、氾濫被害の防止を図ります。また、今後とも急流河川対策の研究・開発を進めます。

【洪水の越流・浸透への対応】

計画規模の洪水(瓶岩地点:4,600m³/s)が越流したり、浸透により堤防が決壊したりしないよう河道整備を進めます。

【「急流河川」常願寺川の土砂動態の解明】

上流域の砂防事業とも連携し、急流河川の土砂動態の解明に向けた調査・研究に取り組めます。

【減災への取り組み】

河川の増水や堤防が決壊した場合の氾濫域の拡大が急激であることを踏まえて、ハード・ソフト両面での水防管理体制の強化・充実を推進し、被害を最小化する「減災」を図ります。

【大規模地震等への対応】

近年、隣県で頻発している能登半島沖地震、中越沖地震に鑑み、地震による損傷・機能低下の恐れのある河川管理施設について必要な対策を実施し、地震後壊滅的な浸水被害を防止します。

【良好な水質の維持】

継続的な水質調査及び関係機関との連携により、良好な水質の維持に努めます。

【流況の改善】

河川水の伏没・還元機構に関する調査・研究を継続し、正常流量の定まっていない上流区間において必要な流量を環境面等から明らかにし、適正な流量の確保に努めます。また、水利用に伴う減水区間については緩和に向け、引き続き関係水利使用者等との調整を実施していきます。

【河川環境の保全、流域内の生物の生息・生育環境の連続性確保】

礫床に棲む植生・魚類や下流部の水辺の自然環境、石の河原等の河川景観を保全します。また、流域内の生物の生息・生育環境の連続性確保に努めます。

【歴史的・文化的施設の活用、河川空間の利活用、連携・協働による河川管理の推進】

先人の知恵や工夫、常願寺川がもたらす脅威、恵み、楽しさを人々が理解、享受できるよう、流域の歴史・物語の追体験や恩恵の体感など、ソフト面も含む整備・保全を図ります。

【常願寺川の維持管理に関する目標】
常願寺川の有する機能が発揮されるよう効果的かつ効率的な維持管理を実施し、堤防や樋門等の河川管理施設、河道及び河川空間が本来もっている機能を十分発揮できるような良好な状態を継続させていきます。

工事に関する事項

①急流河川対策

②堤防の量的整備

③河道掘削

④堤防の質的整備

⑤霞堤の機能維持、保全

⑥耐震対策の実施
(大規模地震等への対応)

⑦河川環境の保全、流域内の生物の生息・生育環境の連続性確保
⑧工事による環境への影響軽減

⑨常願寺川フィールドミュージアムの形成
⑩住民のニーズ等に応じた多様な利用空間の創造

維持管理に関する事項

⑬河川・河川管理施設の巡視・点検・調査(監視)
⑭河道・河川管理施設の維持管理(評価・改善)

⑮土砂動態のモニタリングと総合土砂管理

⑫河川管理の高度化と防災情報の質の向上、防災情報の伝達の迅速化等

⑯避難訓練等
(大規模地震等への対応)

⑰水質調査の継続実施
⑱水質事故時の対応

⑲関係水利使用者との渇水調整
⑳流況等のモニタリング
㉑正常流量設定に向けた調査

㉒環境モニタリング

㉓地域と連携・協働する河川管理

⑪サイクル型維持管理の実施

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

河川環境の整備と保全